

令和6年度事業報告書		事業 所名	訪問ヘルパーセンターしおかぜ	作成者	丸山 順	作成日	R6.3.31
目 標	本年テーマ	(計画) 専門的技術及び知識を身に付ける。					
		(評価) 研修を行うことは出来たが、技術及び知識が自身のものになったか確認することが出来なかった。					
基 本 処 遇 及 び 運 営	■令和6年度処遇及び運営方針に対しての評価						
	(計画)①個人で一年間の目標を立てる。(登録職員以外)						
	②個人目標に沿った研修計画を管理者が立案する。(動画研修を使用し、正規職員4回／年、契約職員2回／年)						
	③サービス提供責任者は、外部研修に参加する。						
	(評価)						
	①及び②においては、それぞれで目標を考えることにより、自身の不得意なことを振り返ることが出来た。						
	個人の目標に沿って研修計画を立案することも出来た。その計画に沿って、多少時期がずれてします職員もいたが、計画通り研修を行うことが出来た。テーマ評価での記載したが、研修結果がどうだったかの評価が実施できていないことが今後の課題である。						
	サービス提供責任者を外部研修に参加させることは出来たが、サービス提供責任者に特化した研修が少ないのが現状である。参加させる研修を見つける手段が必要である。						
研 修 ・ セ ミ ナ ー	■職員研修計画と実績						
		研修 名称	参加実績				
		虐待研修	参加することが出来なかった。				
		サ責の資質向上研修	苦情対応研修と調理研修に参加した。苦情対応に関しては、サ責の経験が浅い職員に参加してもらった。調理研修はご利用者様の病歴に合わせた料理法を学んだ。				
		救命救急講習	消防署にお願いに上がったが、事業所職員が少数であり、消防署としても対応が難しいということで、調整を行ったが実施することが出来なかった。				
		計画に沿って外部研修に参加させることが出来なかった。計画を把握し、計画内容に沿った研修を意識し探すことが出来なかったのが原因である。					
会 議 ・ 委 員 会 ・ 内 部 研 修	■会議・委員会計画実績・効果						
		会議委員会名	実績・効果				
		ヘルパー会議	月一回必ず実施することが出来た。参加できなかった職員に対しては、iPadで録音し内容の確認を行うことが出来た。使用状況の話はしていたが、利用獲得の話は行えていなかった。				
		事故予防委員会	ヘルパー会議内で報告及び検討を行った。訪問介護中の事故はなかったが、訪問前であったり、訪問後にご利用者様から転倒があったなどの報告があった。				
		感染症委員会	ヘルパー会議内で報告及び検討を行った。感染症対策として訪問時に必要なものを検討し、改善を図ることが出来た。				
		虐待防止委員会	ヘルパー会議内で報告及び検討を行った。虐待と思われる事象は確認できなかった。				
		安全衛生委員会	サービス訪問により参加できない月もあった。訪問の労働環境に対する意見などの発言がなかった。				

防 災 ・ 災 害	■災害訓練計画・実績				
		訓練予定月	実施月	訓練目的	訓練評価
		12月		感染症発生時の対応方法を学ぶ。	実際に防護具の着脱の訓練を行った。実施に行ったのは初めてであったので継続することが必要である。間違いにも気づくことが出来たので有意義な経験が出来た。
行 事 ・ イ ベ ン ト	■月別行事(下段)・内部研修報告(上段)				
	月 度				
	4 月	年間をとおして各人が個人研修計画に沿って受講した。			
		誕生日プレゼントをお渡しする。			
	5 月	倫理・法令遵守 担当:丸山			
	6 月	接遇マナー研修 担当:中地			
	7 月	認知症研修 担当:原			
	8 月	介護技術(入浴介助)研修 担当:安藤			
	9 月				
	10月	感染症の予防及び蔓延の防止 担当:中地			
	11月	権利擁護・虐待防止研修 担当:原			
	12月	BCP研修及びシュミレーション 担当:丸山			
	1 月	事故対応研修 担当:安藤			
	2 月				
	3 月				
(総評)					
本年度のテーマ及び運営計画においては、個人研修計画の立案及び実施は問題なく行えた。自身で研修目標も掲げ、それに沿った研修を受講することが出来た。そのことを考えるとテーマの知識及び技術の向上も前年度よりも向上したと考えることが出来る。しかし、それぞれがどれくらい向上出来たのか検証を行っていないので、実際には評価しがたいところもある。					
数値目標は、稼働率80%を目標に掲げていたが、結果は73.7%と大きく下回ってしまった。原因としては、毎日のご利用の方が、24時間訪問サービスの事業所に変わられたことがひとつである。また、新規のご利用者様は年間で35名ほど獲得することが出来たが、それを上回る入院者や利用中止の方がいた結果、稼働率を上げることが出来なかった。そして新規利用者獲得が受け身になっているのも原因であったと思います。					
今後は積極的な受入体制を整え、サ責の営業活動及び考え方を変えていくことが必要であると考えます。					